



No. 2642
2013年1月15日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田 昌仙

放射能対策・支社間で対応に差

仙台・水戸地本共催 国労フクシマ放射能問題交流会



講演する國分氏と熱心に聞き入る組合員

11月24日、郡山ビックアイにおいて、国労「フクシマ」放射能問題交流会が開催された。この集会は昨年の福島第一原発事故による放射能汚染に対し、JR会社に対応を求め、また原発問題を広めていくことを目的に開催されたもの。集会には仙台地本・水戸地本の組合員約60人が参加した。

収束には程遠いフクシマ

東日本大震災に起因した昨年の東京電力福島第一原発事故により、福島県内を中心に放射能汚染が広がり生きていること・生活すること全において深刻な状況を生み出している。

国労は仙台支社に対し、職場環境における線量の測定や線量計の配備、放射線被曝対策や除染等の対応を申し入れているが、仙台支社は「国の定める警戒区域や避難準備地域などに該当しない」「20 mSv/年を超える地域はないので対策はしない」「一企業としてこれ以上の回答は出来ない」として対策を講じていない。

また現在、水戸支社と仙台支社の放射能汚染対策や対応に違いがあることから、放射能問題を会社に対応させていくことと、原発問題を他県の仲間にも広げることとを目的として開催されたもの。

放射能問題は人権問題！

集会では、福島県平和フォー

11	12	12	12	12	12	12	12
30	1	2	2	4	6	6	6

東日本本部経協文科ダイヤ改正
地本学習会（労働協約）
東北貨物協議会定期委員会
山形地区集会
全国代表者会議
第1回春闘事務局会議
郡山地区集会

12	12	12	12	12	12	12	12
8	8	10	13	14	15	26	26

第44回アスベスト対策委員会
若松地区集会
第3回執行委員会
第37回地本運輸協議会定期委員会
福島地区集会
東日本ブロック別全分会長会議
団交（ダイヤ改正支社提案）

水戸支社は除染し線量計を配備

風呂のお湯を入れ換えてほしいということや福島県の転校生の拒否がされている。親は補償金で遊んでいるという非難もされている事などがニュースになった。そもそも原発が出来たことが差別であるし、事故が更なる差別を生み出した」と差別問題であるとの認識を示した。

支社は対策急げ

▼仙台と水戸地本の交流会では支社間における対応の違いが明らかになった。例えば、水戸支社では1 mSv/h以上の制限付きだが住宅の除染を実施。また希望者には血液検査も実施している。

さらに職場単位で線量計を配布（例えばいわき保技セでは3個配備）し、現場で測定しているとの報告があった。

▼同じ会社で働くものが、「支社が違う」だけで扱いが違うということが平然とまかり通っている。

▼ローカルルールは正しく、それが叶わぬ年配者は半ば諦めの境地とも聞く。

▼ためらっている時間はない。仙台支社には早急な決断を求める。



編集長の眼

飛躍の一年に向けて意思統一

活動家交流集会

地方本部は1月6日、仙台市内エルソーラにおいて、「2013年春闘勝利活動家交流集会」を開催した。地本大沼委員長は、「①春闘情勢／使用者側はベア論外、定昇見直しと踏み込んできている。情勢は厳しいが確認された運動方針を全体がまずやりきろう②政治情勢／衆議院選挙結果は厳しく自民圧勝も得票数は減。T P P参加・原発ゼロ見直し・税金を投入しての公共事業で景気対策・解釈改憲の先の抜本改正③自衛隊の軍隊化等々、参議院選挙は押しとどめるか、流されるかの分水嶺④国労の課題／人事賃金制度導入後の検証、労働条件に関する協約締結、13年問題Ⅱ雇用制

職場の闘いで大幅賃上げを

続いて東日本本部武笠執行委員が「13年春闘情勢と私たちの課題」と題した講演を行なった。以下要旨。●総選挙結果をどう見るか①小選挙区がもたらした虚空の多数（民意の薄い自民の圧勝）②憲法問題、改憲の目論見／9条は二度と戦争を起こさないという国際公約でも

役員交代 お疲れ様でした！

12月10日、国労東北貨物協



真砂婦人部長よりお花が贈呈



貨物協会大越議長

議会議長を退任することになった岩井幸二さんの慰労会が地方本部の主催で行われました。岩井さんは貨物協会の議長と同時に地方本部の特

ある。③政党配置と国民運動との共同。消費税、原発、T P P、基地問題等、我々の利益と相反する課題に対し様々な団体との共闘・連携が必要になってくる。●働く者の課題について①退職強要など違法な人減らし・リストラが横行。法律においても解雇規制を明確にし、退職強要はもちろん、転勤や出向も本人同意を得ることを前提とした法整備・明文化。②原則正社員、無期雇用とし、非正規の不利扱い禁止と正社員化。労働者派遣法の抜本的改正を求める。日本は世界有数の使い捨て国家。③長時間・過密労働／現職死亡と精神疾患が非常に多くなっている。不払い・サービス残業の横行。通達を守

別執行委員として2期4年の任務を終え、新議長の大越喜一さんに引継ぎました。お礼の挨拶で岩井さんは「JR各社における貨物の位置付けは厳しいものでしたが、しかし諦めずに精一杯闘い続けてきました。今後とも客・貨一体となった闘いを一組員として頑張ります」と決意を述べました。また大越さんは「木元事務局長と共に力を合わせて諸課題の改善に全力で奮闘します」と決意を述べました。●職場からの報告講演を受けての意見交換後、3支部から報告を受けた。

職場からの報告

宮城県支部秋山委員長◆組織強化・拡大は最重要課題。そして「組織強化なくして拡大なし」をスローガンにこの一年間、4回の対策会議を開催し議論。JR不採用問題の闘いで培ったエネルギーを組織拡大に傾注しよう。◆支部の取り組み①分会活動活性化（分会執行委員会、全体集会、班集会へのオルグ）②分会の課題を明らかにする③リストアップと結びつきの強化④再雇用者への継続加入の呼び掛け⑤再雇用制度の問題点と労働実

態の集約と改善に向けた取り組み強化⑥職協分会間のつながりと交流強化。◆分会の取り組み①分会執行委員会定期開催と全体集会や班集会の定例化②組織強化・拡大の必要性について議論を深める③職場問題の点検・摘発と要求集約、改善。支部も一緒に取り組む④組合員の不安・悩みを把握し個人解決をさせない⑤分会情報の発行と掲示。◆成果と課題①組対会議に参加できない分会もあった②殆どの分会で執行委員会等は定例化しているが、一部不十分な分会も。学習会も少ない③若手との交流はほぼ行われている④組合説明会の開催とチャレサポの指定要請を行なった⑤配属日にチラシ等を手渡し出来なかった。◆国労として「労働条件改善、職場問題点の改善などの職場の運動なくして組織拡大はない」ということでこの一年奮闘していきたい。

相談したところ勧められた。自動車支部では「加入・脱退は自由。自分で考え自分で行動・決断してくれ」という話しをした数日後、本人が加入を決意し地本に加入届を持参。現在も元気に頑張っている。地本全体でのバックアップを要請する。◆昨年、乗務手当の過小払いが発覚。団交で取り上げたら直ぐに精算となった。◆今回の組織拡大では、国労組合員の後姿は誰かが見ているということを実感した。見られても恥ずかしくない後ろ姿、魅力ある組合を目指したい。◆非正規社員の待遇改善を本部・地本に強く要請する。【編集部より】全体討論では各支部分会9人から発言がありましたが、紙面の都合上割愛させて頂きました。申し訳ございません。

仲間の異動

12月17日付

◆出向

猪股 秀一さん

新白河駅→会津鉄道(株)

退職のお知らせ

10月31日付

エルダー退職

高橋 秀雄さん

貨物嘱託

長い間お疲れ様でした